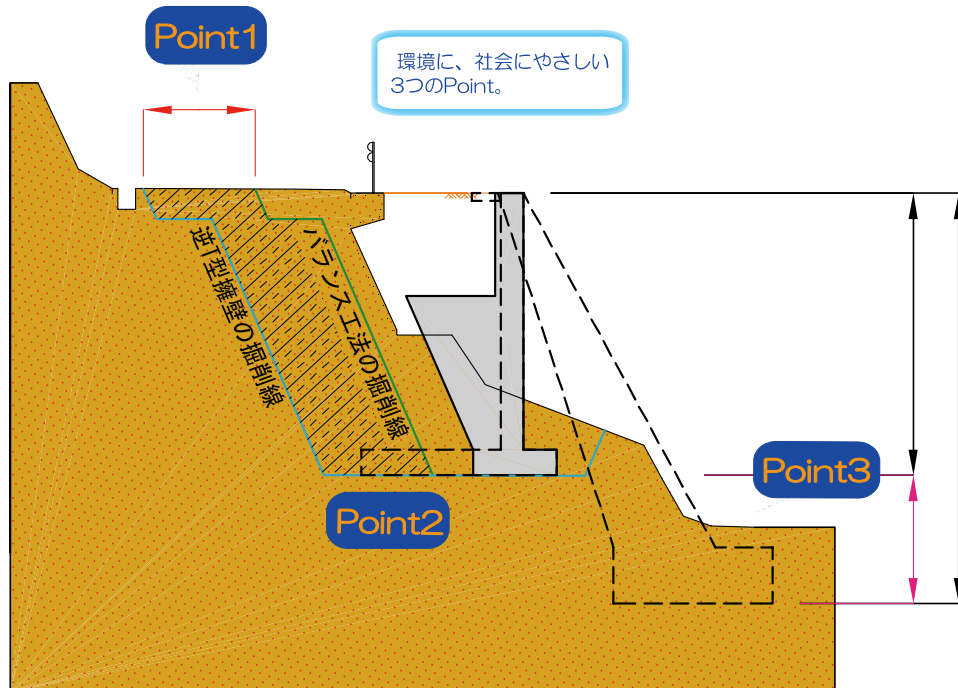


バランス工法擁壁



■ ここが Point!! ~現道拡幅の場合~



- Point1** 逆T擁壁と同じ擁壁高さのバランス工法擁壁では、道の通行が可能のままの設計が可能です。
- Point2** 掘削幅が小さくなることから、掘削土量の削減ができます。
- Point3** 前面に勾配のある擁壁と比較した場合、擁壁高を小さくでき、コンクリート量を低減できます。
また、前面に用地の制約がある場合にも非常に便利です。

●お問い合わせ先



Kyowa

協和コンクリート工業株式会社

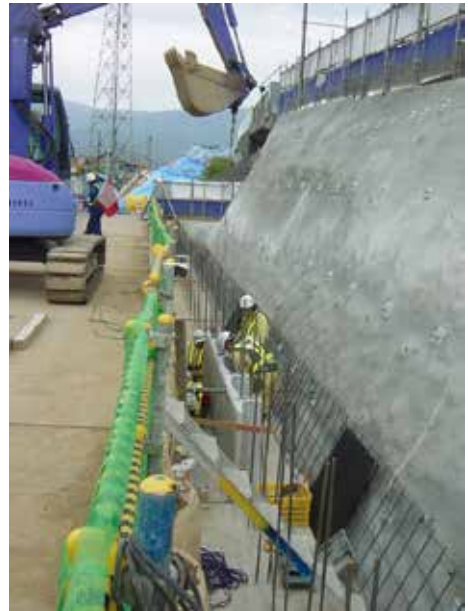
本社・営業本部
〒501-3956 岐阜県関市保明字柳上1285
TEL (0575) 28-2236(代) FAX (0575) 28-4858
<http://www.kyowa-con.co.jp>



岐阜県産産物
リサイクル認定製品

保戸島工場〈JIS表示認証工場〉
迫間工場〈JIS表示認証工場〉

Balance Method Wall 工法比較から詳細設計までお任せください。

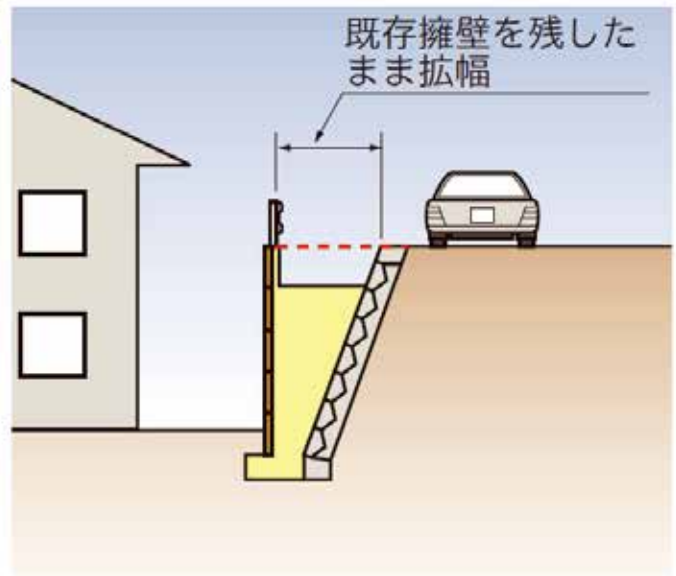
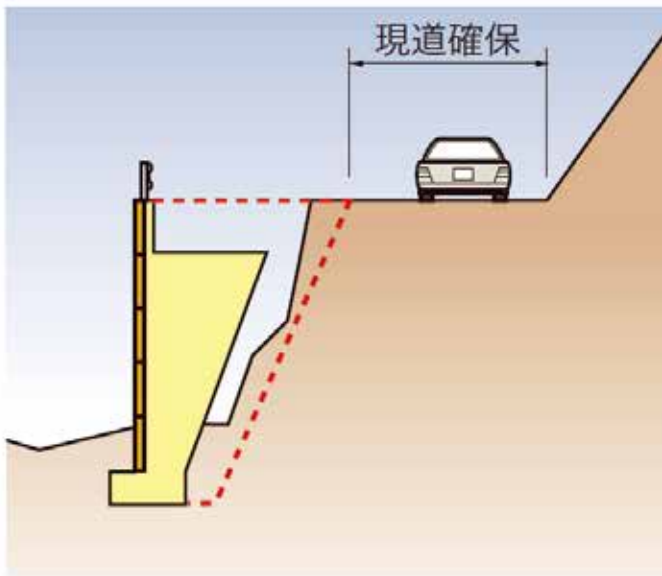


■ バランス工法擁壁^{PAT}とは？

底版幅より上辺幅のほうが広い、逆台形コンクリート擁壁工法で、実績も十分にあります。様々な利点を持ち合わせた形状で、前面には耐久性、景観に優れた石肌模様のプレキャストブロックを使用します。

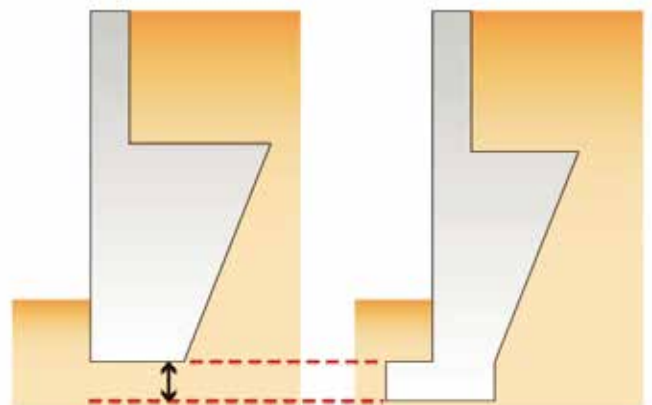
◆特長

1. 基礎幅が従来擁壁の $2/3 \sim 1/2$ で背面の掘削幅が少なく、工期の短縮工費の低減を図れます。
2. 通行止め（車線減少）をしないで施工ができます。
3. 前面にプレキャストブロックを使用するため、施工が早く安全です。
4. 既設の擁壁（構造物）を残したままの拡幅工事も可能です。
5. 特に山岳部の急斜面での道路拡幅、新設工事にバランス工法の特長を発揮することができます。
6. 埋設物（光ケーブル、ガス管、水道管、下水道管）など敷設替えを回避できます。

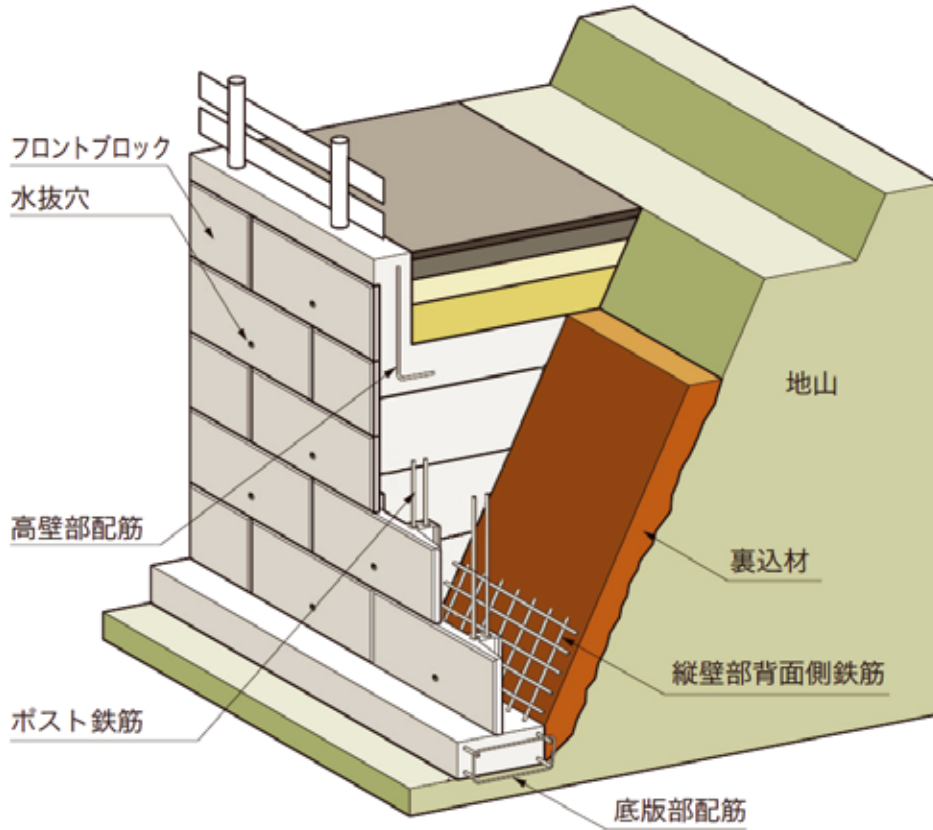


底版有タイプとの比較

- ◆掘削にある程度余裕があれば、フーチングレス断面での検討も行えます。
- ◆フーチングレスにすることで擁壁高を低くできます。
- ◆フーチングレスの場合、構造鉄筋が必要でなくなる場合があります。
- ◆フーチングありとなしでは、ない方の壁体が断面積が大きくなります
※どちらかの経済的な断面を選定します。

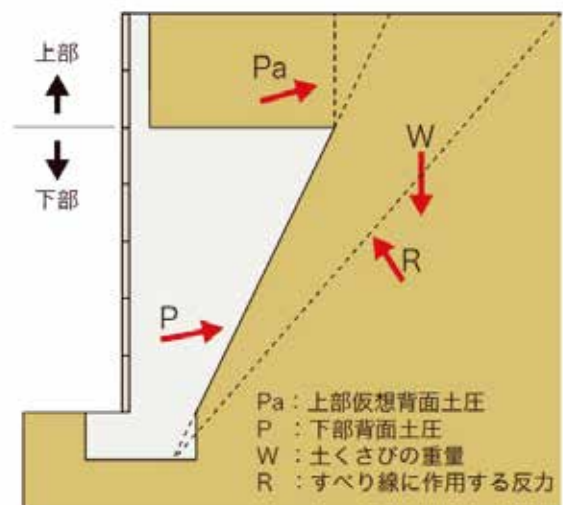


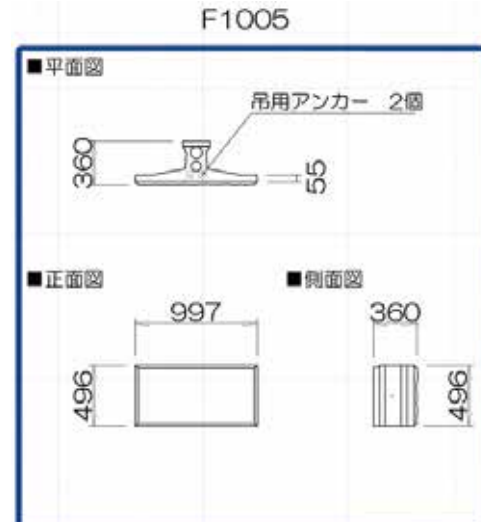
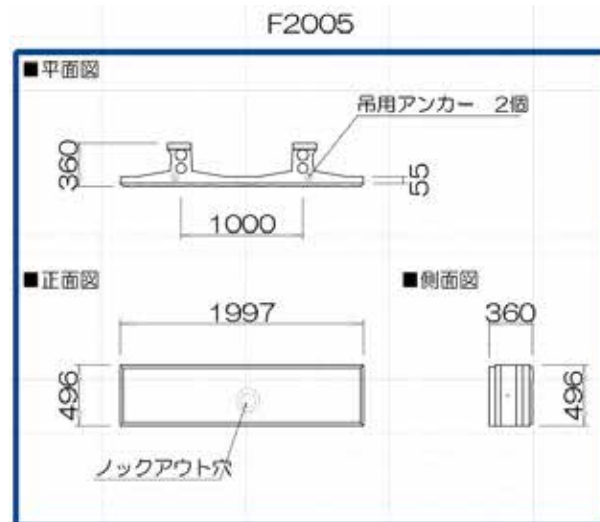
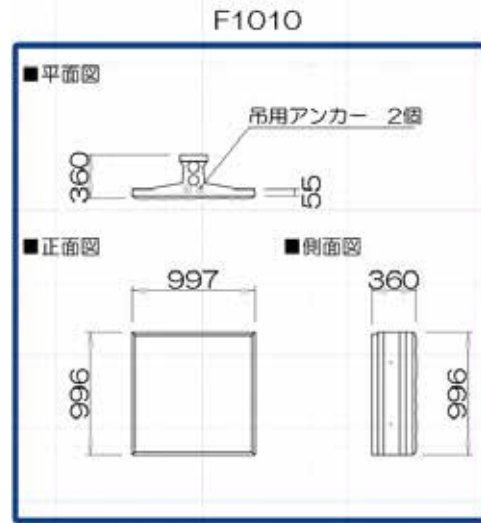
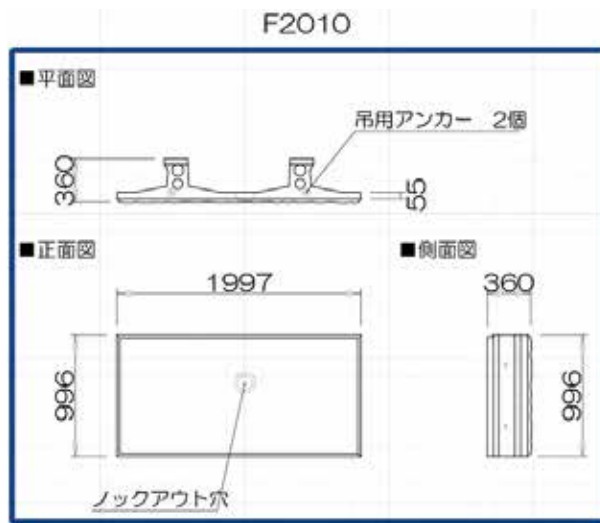
◆標準敷設図



【設計事項】

「道路土工—擁壁工指針（日本道路協会）」に準拠し設計しています。





■ブロック固定用モルタル使用量(1:2)

呼び名	モルタル数量(m ³)
ブロック1m ² 当り	0.012
F 2010	0.024
F 2005	0.012
F 1010	0.012
F 1005	0.006



■標準歩掛

呼び名	規格 長さ×高さ×幅	参考質量 kg/個	1日の標準据付数		労務				トラッククレーン
			m ³	個	世話役	特殊作業員	普通作業員	小計	
F 2010	1997×996×355	622	—	—	—	—	—	—	—
F 2005	1997×496×355	302	—	—	—	—	—	—	—
F 1010	997×996×355	304	—	—	—	—	—	—	—
F 1005	997×496×355	156	—	—	—	—	—	—	—
※標準歩掛(バランス工法 10.0 m ² 当り)		—	70	33~43	0.07	0.14	0.50	0.71	0.15

※フロントブロック(150 m² (L=30.0m × H=5.0m)以上の標準歩掛)

※現場条件が異なる場合は、別途考量してください。

※トラッククレーンは油圧式 10~11t吊を標準としていますが、現場条件により適合した機種を計上してください。

※施工場所によりブロックを仮置きすることができない場合は、補助クレーンとして現場内運搬用にクレーン付トラック(2.9t吊)を計上してください。